

2 魅力ある懇談会・保護者会の進め方

学年・学級懇談や保護者会の雰囲気はいかがですか。保護者は主体的に参加し、情報交換や情報共有ができていますか。担任が保護者、保護者同士とのよりよい関係づくりを築くきっかけとして、懇談会や保護者会に参加型の演習（ワークショップ）を取り入れてみましょう。

(1) 会に向けての準備

ポイント① 情報を集めておく

○事前に保護者の方々の悩みなどをアンケートや同僚からの情報で把握しておく。
○アンケートの結果等から、会で話し合うテーマを決める。（詳しくは資料編をご覧ください。）

関心が高まる話合いのテーマ例

- 子どもの成長を伝えるテーマ
『「子どもたちの今」～アンケートから見えてくる親子の意識の違い～』
- 家庭で役立つテーマ
『家庭学習のやる気アップ！～親としての声のかけ方～』
- 保護者が支え合う、元気になるテーマ
『嬉しかった子育てのあんなとき、あんなこと』
(他のテーマは資料編をご覧ください。)



ポイント② 会の案内を工夫する

○懇談会や保護者会の名前を工夫する。保護者の方に「今までと違うぞ。」と思われるような案内は効果的である。
例：第1回学年懇談会「初めての〇年保護者サロン」のお知らせ（資料編をご覧ください。）

ポイント③ 会場を工夫する

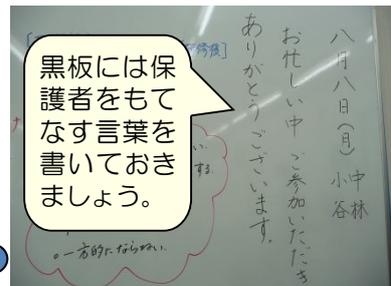
会場の配置例

1グループは、4～6人程度の人数で座れるように机を合わせておきます。保護者と一緒に会場設営すると会話のきっかけとなります。



黒板

黒板には保護者をもてなす言葉を書きおきましょう。



配布したい資料や見せたいものなどを置く「ほっとステーション」を設置すると喜ばれます。



花を飾るとか、開会までにヒーリング効果のある音楽を流しておく、雰囲気が和みます。



テーブル

ポイント④ 会の運営を工夫する

1. 会の内容や目安の時間等を示しておく。
レジュメや黒板への板書等
2. 自己紹介では、名札を活用する。初めの会で名札づくりをすると、年間使うことができる。
3. 保護者をお迎えし、声をかける。
4. 先生方の自己開示が心の壁を取り除き、円滑なコミュニケーションを生む。
会のスタートのあいさつが担任自身の自己開示のチャンス

※参加型の会では、「進んで保護者とつながろう」という気持ちを態度や言葉で表すことが大切です。



ポイント⑤ 関心を引く工夫をする

- 写真やイラスト、ビデオ等を有効に活用する。
 - アンケート等の客観的なデータの活用をする。
- ※話だけでなく、時には写真や映像、子どもたちの作品、アンケートなどのデータがあると、保護者の関心が高まります。



ポイント⑥ 参加者同士が話し合いをしやすい雰囲気をつくる

- 教師自ら「傾聴する姿勢」を示す。
「うなずき」の動作は相手により印象を与えます。
どんな意見に対しても、尊重し受け入れられる心持ちが大切です。
- 「話し合いの流れ」を工夫する。
「個人」⇒「グループ」⇒「全体」
- 会の運営をコントロールする。
あらかじめ、話し合い等の時間を設定しておくとの流れがスムーズになります。
- 会の前に、「参加」「尊重」「守秘」を確認する。



その他、あるとよい準備

- 年度当初に会の年間計画を学級役員さんと相談して立てる。
 - ・参加型保護者会の趣旨や運営方法（アイスブレイク+主たる活動）の共通理解
 - ・学校の諸事情（クラス替えの有無、保護者の様子など）を考慮した会の内容を検討
- ※保護者の中には、参加型の話し合いが苦手な方もいらっしゃるかも知れません。そのようなことも含めて学級役員さんと相談しましょう。

会の年間計画の例

	主たる活動（テーマ）	アイスブレイクのプログラム
4月	学級イキキ大作戦（悩みや期待）	後出しジャンケン、ネームライン ほか
5月	担任の思い、保護者の思い（学級経営）	後出しジャンケン、肩たたき（時間があれば）
11月	これって誰が決めるの？（人権教育）	バースデーライン、キャッチ ほか
2月	わが子の生活習慣、大丈夫？（保健）	好きな〇〇ネームライン、インパルス ほか
3月	成長の軌跡輝く10の光（子どもの成長）	仲間さがし、歌に合わせて手遊び ほか

(2) 「参加型保護者会」の流れと活動内容

導入

アイスブレイク（約10分間）
（雰囲気をもたせる）

- 簡単なゲームなどで、初対面の緊張をほぐし、気軽に思いや考えを話することができる雰囲気をつくれます。
- グループづくりを兼ねることもあります。

ポイント①

より効果的なアイスブレイクを取り入れる

緊張感を解きほぐすアイスブレイク

- ジャンケン（後出しジャンケン・ジャンケンチャンピオン・ジャンケン列車など）
 - 肩たたき（童謡「うさぎとかめ」）
音楽に合わせて、隣の人と肩をたたき合う。
- ※みんなで声を出したり歌を歌いながら活動したりすると気持ちも連帯感も高まります。



アイスブレイクの詳細は、とっとり子育て親育ちプログラムをご覧ください。
www.pref.tottori.lg.jp/facili/

（資料編もご覧ください。）

グループをつくるアイスブレイク

・バースデーライン

ジェスチャーだけで、お互いの誕生日を確認し、1月1日生まれから12月31日生まれまでの輪をつくる。

※楽しくゲームをしながら、グループづくりができます。

1グループの人数は、その後のワークショップの内容を考えて、設定しましょう。通常、4～6人が適当です。

アイスブレイクは、参加者の出会いの頻度（初めての場合、2～3回目の場合）や時期（季節、学期）により、内容を変えましょう。

ポイント②

主たる活動の前にルールとマナーを確認する

「参加」「尊重」「守秘」の確認

参加者の自己開示を促すきっかけづくりを行う。

- 「参加」…積極的に参加する。でも、どうしても参加できない時「パス」もOK。
- 「尊重」…参加者一人一人の考えを尊重する。
- 「守秘」…参加者の個人的な情報は守る。



展開

ワークショップ（約30分間）
（主たる活動）

- 身近なテーマについて、グループで自分の思いを意見交換をします。
- 家庭教育の悩みや情報を共有しながら楽しく話し合いを進めます。

ポイント③

話合いのテーマに沿った活動を選択する

主たる活動の例

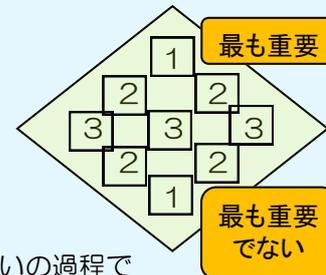
・ロールプレイ（役割劇）「こんな時、なんて言う？」

- ①友達とけんかをした子どもと、わが子に寄り添えない母親との役割劇を観て、わが子や友達の気持ちを考える。
- ②わが子が上手に関わっていくことができるような言葉かけをグループで話し、ロールプレイのシナリオ（親子のやりとり）を作る。
- ③グループごとに作ったシナリオをもとにロールプレイを発表し、子どもに大切にしてほしいことについて、全体で意見交換をする。



・ランキング(重要と考える順に順位づけする)「こんな子に育ててほしい」

- ①「こんな子に育ててほしい」と思うことを付箋に書き出す。
- ②グループ内で一人ずつ思いを語りながら書いた付箋を出し合い、それらを類型化して9つにまとめ、新たに9つのカードに書き込む。
- ③まとまった9つについて、自分たちの意見を出し合い、みんなが同意した優先順位に従って、最も重要な意見を1つ、2番目に重要な意見を2つ、3番目を3つ、4番目を2つ、最も重要でない意見を1つ選んで右図のようにダイヤモンド型に並べる。
- ④各グループの代表が、ランキング1位と最下位について、どんな話し合いの過程で決まったのか説明する。時間があれば、グループ内の意見が食い違ったカードについても、その理由等を説明する。



※主たる活動の内容は、保護者のニーズに合わせて選択をすると保護者の思いに沿ったワークショップができます。(他の活動については資料編をご覧ください。)

まとめ 振り返り（約10分間）

- ・学習で気づいたことを個人やグループで振り返ります。他の人の感想を聴くことにより、自分の子どもとの関わり方を振り返り、新たな気づきが生まれます。
- ・参加者同士の一体感も強くなり、ネットワークが生まれます。

ポイント④

ワークショップの振り返りを行う。

○個人・グループでの振り返り

活動で気づいたことや学びをワークシートに記入して、グループ内で情報交換する。

○全体での振り返りの共有

各グループの代表が発表し、全体で共有する。

○進行役のまとめ

全体で共有した情報を踏まえ、意見をまとめたり、担任としての思いを話したりして、家庭と学校が共に取り組んでいくことを確認する。

※グループ内で出てきた情報で、キーワードになるような大切な言葉は、黒板に記載しておくこと話し合いをまとめる際に有効です。



アンケートや話し合いのテーマ、教室環境やアイスブレイクなど、多くの保護者に参加してもらえるような工夫を少しずつ取り入れることで会の雰囲気は変わります。保護者が参加して良かったと思える懇談会や保護者会にしていきたいと思います。